

# 令和5年度事業報告

## I 概要

高齢化が加速している現代日本においては、60歳以上のシニア世代の役割も増加しています。また、生涯現役という考え方が浸透し、自分らしい働き方を模索するようになり、生きがいについても、特に重要な問題となっています。人生100年時代と言われる現代においては、長期的な人生設計が必要とされ、生涯現役を実現するために、ワークライフバランスや社会参加の促進、健康寿命の延伸などが重要な課題となっています。一方で、シニア世代が働くことで生み出される社会的価値を再評価し、その貢献を社会全体で受け入れることが求められており、そのためにも、シルバー人材センターは支援体制を充実させ、シニア世代が自分らしい人生を送ることができるような社会を実現する必要があります。さらに、ライフスタイルが多様化する中で、個人が自己実現に向けて自由に選択できるようにするために、様々な分野において、ニーズに沿ったサービスの提供が求められます。60歳以上のシニアが生きがいを持って、健康的かつ充実した人生を送ることができる社会づくりに向け、シルバー人材センターの様々な取り組みが期待されています。

こうした中、設立40周年の節目を迎えた当シルバー人材センターでは会員の社会参加、社会貢献、生きがいの充実を図るとともに、地域社会へのニーズに応えるために、会員増強と就業機会の確保を積極的に推進しました。

その結果、会員数は前年比79名増となり、会員の増強においては、様々な取り組みの成果が表れたものと考えます。一方、請負事業の契約額は微増したものの、派遣事業の契約額は前年比3.4%減となり次年度に課題を残すこととなりました。

令和5年度の事業報告の詳細につきましては、以下のとおりです。

## II 活動報告

### (1) 就業機会の確保と組織的提供事業

「就労意欲のある会員の就労支援」の理念の基に、会員の就業ニーズと地域企業等のニーズを把握・分析し、就業機会の拡大と組織的提供に向けた取り組みを行いました。

- 会員の多様な就業ニーズに応えるため、商工会議所の会報にチラシを折込み、市内の事業者に対してシルバー会員の活用を促進しました。
- 会員限定のスマホ教室を独自事業として市民向けスマホ塾に展開、また令和3年から始めた寺子屋事業では、新たに延長コースであるわくわく教室を設けるなど、独自事業の就業機会を拡大し、就業延実人員が前年対比54%増の270名となりました。
- ホームページ、毎月発行の事務局だより及び公式ラインを活用し求人情報を提供

するとともに、毎月職員による新規入会会員の就業マッチング会議を開催し効率的な就業機会の提供に努めました。

## (2) 指定管理事業

「生きがいセンター」の指定管理者として、利用者の立場に立った管理運営に努め、市民の豊かな人づくりのための生涯学習の場として、また趣味の活動などを通じて積極的に社会参加をしていただくための場として、人づくり・地域づくりの拠点としての役割を果たしました。

- 館内ロビーでは、季節に合わせて、施設利用者やシルバー会員による趣味の作品の展示をするなど、地域のみなさんに交流の機会を提供するとともに来館者が気持ちよく利用してもらえるよう努めました
- 地域密着イベントとして「生きがいセンターまつり」を開催し、施設利用者と施設入居者であるオレンジホーム、あすなろ教室およびシルバー人材センターの会員、役職員の共同開催で、地域住民とのコミュニケーションを図り、地域づくりに貢献しました。
- 「生きがいセンター」の運営の改善を図るため、利用者に対して利用に関するアンケート調査を実施し、利用環境の改善に努めました。

## (3) 有料職業紹介事業

企業の求人ニーズを、シルバー会員および地元の高齢者のみなさんに情報提供することにより、求人と求職のニーズをマッチングさせ、本人が直接雇用を希望する場合や、直接雇用が適切であると判断される業務については積極的に有料職業紹介により対応しました。

- 企業訪問による就業開拓や、ハローワークの求人情報の活用などにより企業のニーズを幅広く収集し、直接雇用が相応しい業務については職業紹介という方法で会員や地元の高齢者に情報提供をすることで、新たに2件の職業紹介を行いました。

## (4) 労働者派遣事業

高齢化や労働力人口の減少が進行する中、シルバー人材センターが人手不足分野や、現役世代を支える分野における労働力の担い手となることを自負し、労働者派遣事業の拡大を図りました。

- 地域と会員の就業ニーズのマッチングを図るために、就業開拓を推進しました。令和5年度は、契約金額においては、前年度比370万円の減少となりましたが、新規受注件数は前年度から5件増加の20件を獲得することができました。
- 発注先企業ならびにセンター職員に対して「適正就業ガイドライン」の周知徹底を行い、就業の適正化を図りました。

## (5) 知識及び技能の付与を目的とした講習の実施事業

会員や地元の高齢者の関心が高い業務分野の知識、技能に関する研修や講習会を実施し、将来的な就業の機会に繋げていくためのスキルアップを援助することで、生きがいの充実、社会参加の促進を図りました。

○昨年度開始した「地域型訪問サービス事業」のための「家事援助技能講習」を2日間開催し、会員及び一般市民32名が受講しました。また「妊婦から子育て期の家事支援事業」についても、フォローアップ研修を実施し、23名の会員が受講しました。

○会員および一般市民向けに「草刈り講習会」、「上映会」を開催、会員向けに「健康講座」及び「交通安全運転講習」を開講し、会員のみならず一般市民の生きがいの充実、社会参加の促進を図りました。

#### (6) 調査研究事業

事業運営の向上、拡大を図るため、近隣シルバーとの人事交流や視察の受け入れを行い、新規事業参入へのノウハウや、独自事業への情報収集に努めました。

○人事交流事業として、東海市シルバー人材センターからは職員を受け入れ、豊橋市シルバー人材センター及び日進市シルバー人材センターへは職員を派遣し、他市シルバーの運営などを学ばせていただきました。

○7箇所のセンターの視察を受け入れるとともに、それぞれのセンターの活動状況をヒアリングし、当センターの事業運営に役立つ情報を得ることが出来ました。

#### (7) 相談事業

センターの円滑な事業運営と活性化を図るため、入会希望の相談、既存会員の就労に関する相談会などを定期的に、また随時行いました。

○入会希望者を対象に、毎月第2火曜日に完全予約制での「お仕事説明会」を、第3木曜日には「会員登録会」を開催し、シルバー人材センター事業の周知を図りました。また定例の説明会に加え、女性限定、業種を特定した説明会やWeb入会の活用など、様々な切り口で入会希望者との相談の場を設けたことで、令和5年度は79名の新規会員増という成果を得ることができました。

○発注希望者からの相談については、Web受注チャンネルの活用やチラシ等の配布により、事業活動の周知を図りました。

○退会抑止策として、3月に役員が電話による就業状況等の聞き取り調査を行い、その結果に基づいて、未就業理由の分析、会員継続のための対応策を検討し、就業率アップと会員の増強に努めました。

#### (8) 安全・適正就業推進事業

シルバー会員が健康で安心して就業できるように、広報誌を通じて、作業中の事故防止、就業途中の交通事故防止などの啓発や発生した事故の詳細を全会員に共有をすることにより、安全意識の徹底に努めました。

○令和5年度は、剪定、草刈りの会員を対象とした全体会議を開催し、安全に関する

DVD を視聴するなど事故の発生防止に努めました。残念ながら、令和5年度は草刈り作業での飛び石事故など損害賠償事故が3件の発生で、前年度に比べ2件増加しました。

- 就業中の虫刺され対策として、剪定、除草に従事する会員にオニヤンマ型フィギュアを支給しました。
- 「安全・安心なシルバー人材センター」を目指して、当センターでの事故発生状況を安全対策部会や衛生委員会で報告、対策の検討を行うとともに、全会員を対象に安全標語の募集キャンペーンを行い、安全意識の向上を図りました。

#### (9) センターの活動等について周知を図る事業

シルバー人材センター事業の理念、活動を地域住民ならびに関係者に広く周知するため、ホームページやチラシ、インスタグラムによる活動紹介や、地域イベントの企画や市主催イベントのボランティアに参加し、積極的に普及啓発活動に取り組みました。

- 定例の「お仕事説明会」に加えて、女性限定や業種を特定した説明会などを開催し、状況に応じた臨機応変な事業説明を行ったことにより、会員拡大を図ることができました。
- 就労的活動支援コーディネーター事業の一環としてシニア層向けのセミナーを年2回、愛知県シルバー人材センター連合会と連携したセミナーを1回開催し、市内のシニア層へのシルバー人材センターの活動周知に取り組みました。
- 地域住民との交流のために例年開催している「生きがいセンターまつり」や「シルバー・オータムフェス」を実施し、地域住民とのコミュニケーションを図りながら、シルバー活動の楽しさや事業の啓発活動に努めました。
- 女性部会「がマダム 1000」による「スマホ教室」、「ガーデニング教室」、「料理教室」、「ハイキング」など、種々の活動状況を、ホームページやインスタグラムで紹介することにより、活動の周知を図りました。
- 会員を募り、市内のイベント「オレンジライアスロン」へボランティア参加したり、焼き芋作りやプールの見守り、家庭科のサポートなど近隣の小学校へのボランティア協力や、市主催のイベント「ごりやく市」に出店し広く展開することにより、市民に対してシルバー活動のアピールが出来ました。

#### (10) その他センターの目的を達成するために必要な事業

高齢者の社会貢献活動を通じた健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉の向上と活性化に貢献するため、蒲郡市からの委託事業である「高齢者介護支援ボランティア事業（まごころDEちょいボラ）」を推進しました。

- 「ちょいボラ」の技術研修については、計画どおり年3回実施することができました。コロナ禍によるボランティアの受け入れ制限もありましたが、新規会員も9名増加し、活動も157件の実績がありました。